

目次

[今週号は 2021 年 10 月 22 日時点の情報を基に作成しています]

投資コラム	：最近の経済指標	1
日本株銘柄情報	：スパイダープラス(4192)	2
日本株銘柄情報	：HPC システムズ(6597)	3

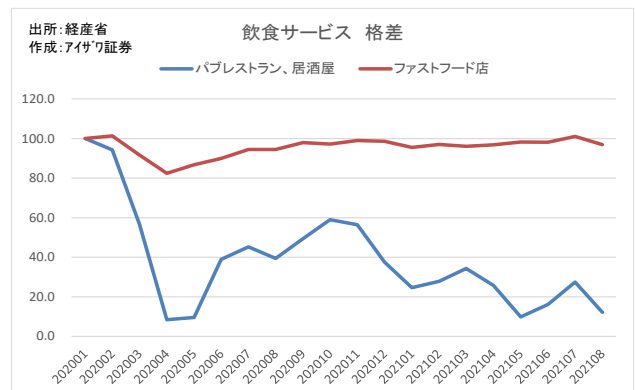
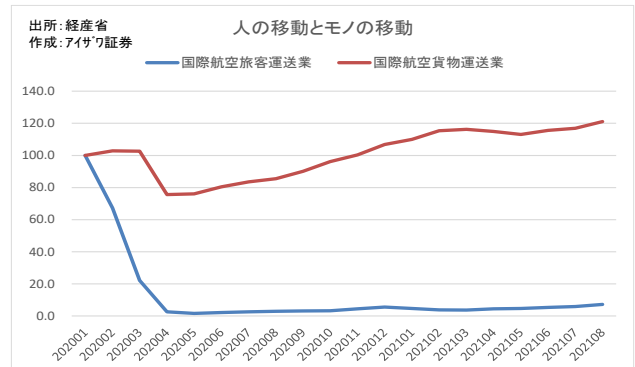
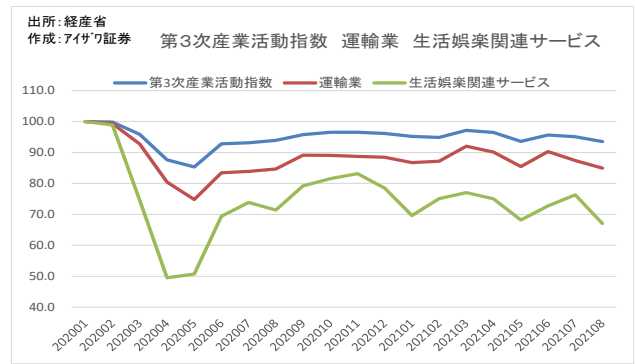
最近の経済指標

笹木 義次

第 3 次産業活動指数を使って、コロナ禍で影響を受けた業種の現状を確認したいと思います。2020 年 1 月を 100 として、2021 年 8 月の活動水準を指数化しています。運輸業、生活娯楽関連サービスが大きく影響を受けました。

運輸業では業種を構成している個々の業種まで見ると、活動水準には差が大きく出ています。人の移動にかかわる国際線では、2021 年 8 月の活動水準は 7.2 と大きく落ち込んだままです。モノの移動にかかわる国際航空貨物では 2021 年 8 月は 121.1 となりコロナ前の水準を上回る水準となっています。生活娯楽関連サービスでも同様です。酒類の提供が主体となるパブレストラン、居酒屋では 2021 年 8 月の活動水準は 12.3 となっています。しかし、テイクアウトが可能なファストフード店は 96.9 とほぼコロナ前の活動水準近辺の水準に戻っています。

1 日も早く経済活動の正常化が望まれますが、影響を受けた個々の業種では、活動水準がコロナ前の水準まで戻らないかもしれません。また戻るにしても時間がかかると推測しています。



スパイダープラス (4192)

笹木 義次

株価指標

株価 (2021/10/22)	1,901.0 円
売買単位	100株
市場	マザーズ
時価総額	629 億円

「SPIDERPLUS」を提供

スパイダープラスは、建設現場の施工管理者（現場監督）の業務を効率化するアプリ「SPIDERPLUS」を建設会社等へ提供しています。

「SPIDERPLUS」は、建築図面・現場管理アプリとして、図面管理、写真管理、報告書作成、電子小黑板などを標準機能として搭載しています。「SPIDERPLUS」を活用する事で、建設現場でのペーパーレス化と情報共有の促進で、施工管理の業務の生産性の向上を図る事が可能となります。

需要増加を見込む

建設会社は、技術者の高齢化や若年人口の減少など建設現場の生産性の向上が重要な課題となっています。そのため建設現場の生産性の向上に貢献する「SPIDERPLUS」への需要は増加する事が見込まれます。また、「SPIDERPLUS」のような現場管理のアプリの普及率はまだ低く潜在的な需要が顕在化すれば高い成長が見込めると見えています。

先行投資で営業損失

スパイダープラスの2021年12月期上半期の業績は、売上高が10億89百万円と前年同期比で8.1%の増収に、営業利益は2億11百万円の営業損失となりました。主力事業であるICT事業の先行的な投資支出により、営業利

<業績の推移>

決算期	売上	営業利益	経常利益	純利益	1株利益	1株配当
2019/12	1,286	64	59	63	2.2	0.0
2020/12	1,973	112	106	103	3.6	0.0
2021/12計	2,216	-540	-590	-593	-19.1	0.0

単位:百万円 (1株利益、1株配当は円) 計画は会社計画によります。

<投資指標>

非連結	NA	倍
今期予想PER		
PBR	13.05	倍
予想配当利回り	0.00	%

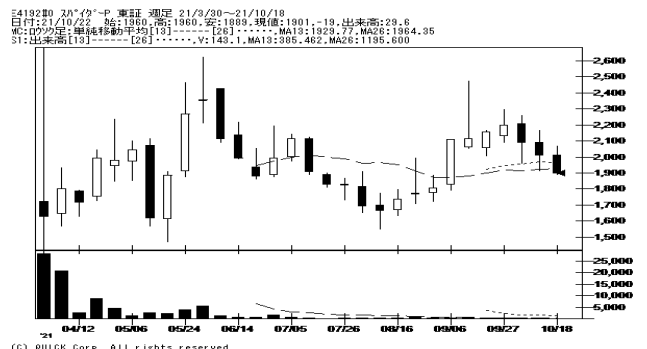
益は損失となりました。

ICT事業の売上高は8億99百万円と前年同期比で31.7%の増収に、セグメント利益は71百万円と前年同期比で70.1%の減益となりました。既存顧客からIDの追加導入が進みID数が増加した事から、売上高は増収となりました。しかし、広告宣伝費や人件費関連費用が増加し、セグメント利益は減益となりました。

契約社数は996社となり、前期末793社と比較して203社の純増となりました。先行指標である契約社数が増加している点を筆者は前向きに評価しています。

通期も営業損失

スパイダープラスでは2021年12月期の業績は、売上高が22億16百万円と前年比で12.3%の増収を、営業利益は5億40百万円と営業損失を計画しています。先行投資支出で営業損失を見込んでいます。筆者はスパイダープラスの2021年12月期の業績は、売上高は23億円と前年比で16.5%の増収を、営業利益は4億円の営業損失になると予測しています。



出所: AstraManager よりアイザワ証券作成

本資料のご利用にあたり、お客様にご確認いただきたい事項を、本資料の最終ページに記載させていただきました。ご確認の程、よろしくお願いいたします。

HPCシステムズ (6597)

笹木 義次

株価指標

株価 (2021/10/22)	3,670.0 円
売買単位	100株
市場	マザーズ
時価総額	156 億円

高機能計算機を提供

HPC システムズは、HPC 事業と CTO 事業の 2 つの事業からなっています。HPC 事業で提供している高機能計算機(HPC)は、科学技術開発における問題を計算によって解決する計算科学という分野で使われています。計算科学は、理論や実験に次ぐ第 3 の研究手段となっています。イメージとしてはシミュレーションとなります。主な顧客は、大学の研究室、官公庁など公的な研究機関、企業の研究開発部署となっています。CTO 事業では、産業用電子機器に部品として搭載される組込み型の産業用コンピュータを開発、製造、販売を行っています。

差別化戦略を評価

顧客仕様の計算環境を構築できる事、強みを持っている計算化学に注力している事など、差別化を図る事で HPC システムズは競争優位性を有していると、筆者は推測しています。こうした競争優位性により企業価値の向上につながる点を評価しています。

グローバルニッチを目指す

HPC システムズでは、2024 年 6 月期を最終年度とする 3 ヶ年の中期経営計画に取り組んでいます。この中期経営計画は、2030 年に HPC システムズがグローバルでニッチトップ企業になるためのものという位置づけになっています。グローバルでニッチな分野でトップを

<業績の推移>

決算期	売上	営業利益	経常利益	純利益	1株利益	1株配当
2020/6	4,725	477	465	307	75.4	0.0
2021/6	5,828	676	665	447	107.8	0.0
2022/6計	6,425	745	741	496	119.5	0.0

単位: 百万円 (1株利益、1株配当は円) 計画は会社計画によります。

<投資指標>

非連結	
今期予想PER	30.9 倍
PBR	8.85 倍
予想配当利回り	0.00 %

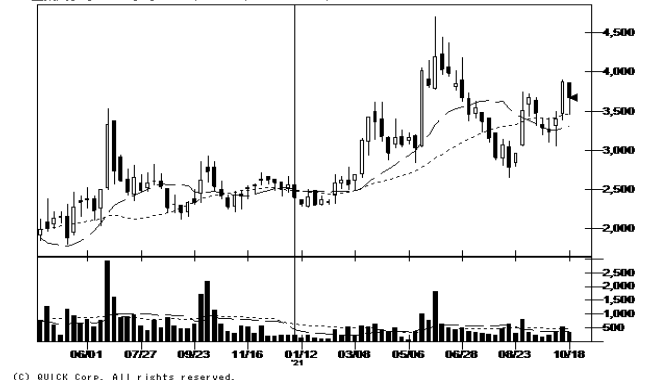
狙う点に関しては、HPC システムズが強みを持っている計算化学の分野でマテリアルズ・インフォマティクスを活用することで、それなりの存在感を示す事を目論んでいると、筆者は推測しています。

今期は増益計画

HPC システムズでは、2022 年 6 月期の業績は、売上高が 64 億 25 百万円と前年比で 10.2% の増収を、営業利益は 7 億 45 百万円と前年比で 10.2% の増益を計画しています。主な顧客である研究開発部門の研究関連の需要は堅調に推移すると見えています。しかし、半導体の供給不足など懸念要因も想定される事からやや慎重な業績計画となっています。

筆者は HPC システムズの 2022 年 6 月期の業績は、売上高が 66 億 60 百万円と前年比で 14.3% の増収を、営業利益は 8 億 20 百万円と前年比で 21.3% の増益を予測しています。これまでの実績から、会社計画を上回ると見えています。

26597# HPCシステムズ 東証 選定 20/4/13~21/10/18
 日高:21/10/22 高:3520 低:3705 空:3485 現値:3670 +125 出来高:74.6
 前:20/10/22 高:3520 低:3705 空:3485 現値:3670 +125 出来高:74.6
 日高:21/10/22 高:3520 低:3705 空:3485 現値:3670 +125 出来高:74.6
 前:20/10/22 高:3520 低:3705 空:3485 現値:3670 +125 出来高:74.6
 日高:21/10/22 高:3520 低:3705 空:3485 現値:3670 +125 出来高:74.6
 前:20/10/22 高:3520 低:3705 空:3485 現値:3670 +125 出来高:74.6



(C) QUICK Corp. All rights reserved.

出所: AstraManager よりアイザワ証券作成

本資料のご利用にあたり、お客様にご確認いただきたい事項を、本資料の最終ページに記載させていただきました。ご確認の程、よろしくお願いいたします。

金融商品取引法に基づく表示事項

■本資料をお客様にご提供する金融商品取引業者名等

商号等：アイザワ証券株式会社 金融商品取引業者 関東財務局長（金商）第 3283 号

加入協会：日本証券業協会、一般社団法人 日本投資顧問業協会

当社が契約する特定第一種金融商品取引業務に係る指定紛争解決機関：

特定非営利活動法人 証券・金融商品あっせん相談センター（略称：FINMAC）

株式の主なリスク

株式は株価の変動等により、損失が生じるおそれがあります。お取引の際は、契約締結前交付書面をよくお読み下さい。

お客様にご負担いただく手数料等について

国内株式は、取引口座に応じて以下の委託手数料（税込）をいただきます。

対面口座：約定代金に対し、最大 1.265%（最大 149,875 円、2,750 円に満たない場合は 2,750 円）

インターネット口座「ブルートレード」：インターネット発注 最大 1,650 円

コールセンター発注 約定代金が 55 万円以下の場合 1,650 円、

約定代金が 55 万円超 3,000 万円以下の場合 3,300 円

コンサルネット発注 約定代金に対し、最大 1.265%（最大 149,875 円、2,750 円に満たない場合は 2,750 円）

免責事項

本資料は証券投資の参考となる情報の提供を目的としたものです。投資に関する最終決定は、お客様ご自身による判断でお決めください。本資料は企業取材等に基づき作成していますが、その正確性・完全性を全面的に保証するものではありません。結論は作成時点での執筆者による予測・判断の集約であり、その後の状況変化に応じて予告なく変更することがあります。執筆担当者または弊社と本レポートの対象企業との間には、重大な利益相反の関係はありません。このレポートの権利は弊社に帰属しており、いかなる目的であれ、無断で複製または転送等を行わないようお願いいたします。

LINE公式アカウント
はじめました！

ベトナムを中心としたアジア情報
をお届けします。

[友だち追加はこちらから！](#)



ID : @aizawa